

中六福祉だより

令和2年7月1日

中六人部地区福祉推進協議会

はじめに

年明けとともに誰もが予測不可の事態が生じて、対岸の火事だと油断していたのが本音でした。新型コロナウイルス感染に、予防対応に日夜大変な時が、早くも6ヶ月余り過ぎました。経験にないことが生じて今の私たちに出来る事は、3密を避けて感染しないことです。

(密の場を作らない、行かない、換気をする)

また、感染予防の基本はマスク着用・手洗い・徹底した消毒の習慣等を身につける事です。一人の発病者が出ないように又、今後、第2・第3波の襲来に油断せず他人に迷惑をかけないように率先して自分を守りみんなが幸せに暮らせる環境を作りましょう。

この現状を見極めて、今後の中六人部地区福祉推進協議会活動を推進してまいりたいと思いますので、暖かいご温情とご指導を切にお願い致します。

* 青空に力強く泳ぐ鯉のぼり。子供たちの明るい未来の夢を託して泳いでいます。
新型コロナウイルス菌感染病を吹き飛ばしてくれるでしょう。



令和2年4月20日撮影

励ましあい 支え合って

中六人部地区福祉推進協議会 会長 大槻

新型コロナウイルスの猛威が世界を覆い、国を揚げて国民一丸となったコロナ感染予防の対策が取り組まれているところです。

人と人との接触や交わりを絶つ事が対策の基本とされ、これらに伴い人々の生活様式も著しい変化を余儀なくされ、日常生活も多大な制約を受ける事になりました。

結果、社会的活動の多くが制約を受ける事になり、様々な地域活動や行事も中止や延期の止むなくに至りました。

この様な中、当福祉推進協議会にあっては、コロナ感染予防の消毒薬の各戸配布やこのような時にこそ子供達の健やかな成長を願う鯉のぼり掲流・子供見守り事業としてのお菓子の提供等、各種の事業を実施してまいりました。

また、計画をしていました4月、5月、6月の「地域ふれあい広場」は中止とさせて頂きましたが、今後安全対策等考査の上、7月以降は随時開催として年内に「90回の節目の広場」開催を目途に準備を進めてまいりたく存じておりますので宜しくお願い致します。

今、高齢者の皆様を始め地域の皆様の不安の日々にあって、安住・安心のふる里づくり、地域の暮らしを支えあう、自助・互助・共助・公助の取り組みの具現化が求められています。

また、暮らしの中身、暮らしの課題が大きく変わろうとしている今、これまで地域で培われてまいりました『励ましあい・ささえあうコミュニティ』の形成が一層必要だと考えます。

当福祉推進協議会といたしましてもこれらを醸成する確かな取り組みの一翼を担ってまいりたく存じます。

つきましては、地域の皆様方より一層のご支援、ご鞭撻を宜しくお願いいたします。

「中六人部地域づくり協議会」の発足にあたって

中六人部地域づくり協議会 会長 藤田

初夏の候 梅雨明けが待ち遠しいこの頃ですが、中六人部の皆さまにおかれましては、このコロナ禍にあっても、お元気でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

今年度からスタートしました中六人部地域づくり協議会は、これからの集落機能や地域福祉の維持や安全対策など、将来的に持続可能な姿であり続けるための住みよい地域をめざして、新たな視点で取り組む組織として発足しました。活動の拠点施設となる事務所（愛称「ミライト中六」）を開設すると共に、地域の活力向上及び地域課題に取り組むことを目的とした活動計画を定め、その実行部隊として協議会の事業推進部会に三つのプロジェクトチームを設けております。

「定住促進対策チーム」は、移住・定住の促進を図っていく取り組みを進めます。

「生活基盤対策チーム」は、地域の暮らしに係る生活基盤の維持、改善施策に取り組んでいきます。地域福祉の取り組みとして特に力を入れていきたいと思っておりますのが、毎週水曜日に開設します「ミライト中六水曜サロン」の活動です。健康長寿の地域づくりに繋がっていく取り組みを推進していきたいと考えております。「地域起こし対策チーム」は、地域を元気にする様々な活動を推進していくこととしております。地域の活性化に繋がるこれらの事業を足がかりとして、様々な課題に取り組み、組織の存在を信頼あるものとしていくための活動をしてまいります。

そのためにも、地域の皆さんの期待に応えていく協議会となっていくためには、多くの皆さんがこの協議会に関心を持っていただいて、常駐する事務局員に気軽に声をかけていただくことから始まるものと思っております。まだまだ「何をやるのか、何の役に立つのか」との見方が大半だとは思いますが、皆さんのお力を貸していただきながら、一步一步前進していきたいと、役員一同意を新たにしているところであります。どうかこの中六人部が明るくて、活力あふれる地域となりますよう、皆様方の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。



芦田均記念館から見た天使の階段



中六人部地域づくり協議会事務所



『高齢化社会と消防団活動』

福知山市消防団 中六分団
分団長 堀

令和二年四月より中六分団の分団長を拝命致しました堀 と言います。宜しくお願ひ致します。平素は中六人部地区福祉推進協議会役員・委員の方をはじめ中六人部地区の方々には、消防団活動に対し多大なるご支援・ご協力を戴き誠にありがとうございます。

さて、令和2年に入り皆様もご存知の通り新型コロナウイルスという人類が初めて遭遇する未知のウイルスの脅威に日本中が影響を受け、ここ京都府福知山市でも感染予防に皆様が一丸となって日々過ごされているところです。消防団活動においても、四月から災害活動以外の広報活動や会議等は自粛している状況であり、2年に1度ある消防操法大会も中止となりました。長年の消防団の歴史の中でこのような事態は初めてのことであります。

しかしながら、火災や災害についてはいつ発生するかわからず、どのような状況でも中六分団として常に地域の安心を確保出来るよう体制の整備に努めていくことが第一と考えています。

今、全国的に少子高齢化であり中六人部地区においても高齢化が進むと同時に少子化も深刻な問題であり、小学校の統合をはじめ目に見える形で影響が確認出来ます。消防団においても団員数の減少と新たな団員の確保が大変厳しい状況にあります。また、消防団員の勤務スタイルの変化等もあり、夜勤勤務や休日勤務又福知山市以外の遠方での勤務など全ての団員が有事の際に出動することが大変困難な状況になっています。有事の際には一刻も早く現場に到着出来る団員を少しでも多く確保することが第一であり、消防団としても団員の勤務状況や有事の状況を的確に把握し柔軟に対処していく必要があると考えます。そして、高齢化社会における有事の際の対応として、消防団員も減少している中で、地域との密接な連携が何より欠かせません。中六人部地域において高齢の世帯が何件あり、世帯構成はどうなっているのかを情報共有し、優先的避難誘導等を行うことが高齢化社会における大切なことであると思います。その点において今後益々中六人部地区福祉推進協議会の皆様や中六人部の各種団体の皆様との『連携』を深めていきたいと考えています。

結びにあたりまして、新型コロナウイルスによる影響で活動自粛中ではありますが、活動自粛解除の際には中六人部の安全・安心のために広報活動等、消防団活動に全力で取組んでまいりますので引き続き地域の皆様にはご協力・ご支援をお願い申し上げます。





中六グランドゴルフ同好会の役割

中六グランドゴルフ同好会
山内

中六人部においても他地域と同様に長高齢化の波が押し寄せいています。しかしながら、残された人生を健康で楽しく、そして福祉推進協議会等の皆様にご迷惑をかけない生活が出来たらと思います。

まず、運動で体力を養うこと、たくさんの方々との楽しい会話、そして少しでも中六のために役立つことが出来たら毎日が充実した時間を過ごせるのではないかと考えます。

中六人部グランドゴルフ同好会の役割がそこにあります。

昨年会員を募集いたしましたところ61名の参加が有りました。

大会を5回開催し年末には反省会を実施し盛り上げました、そして公民館主催の球技大会、コミセン予選会、コミセン大会 又週1回の練習を開催し、体力増強、皆さんとの連帯感、明日への活力を蓄えることが出来ました。

今年は旧中六人部小学校グラウンドが使用できなくなり憂慮いたしました。笹場河川敷広場の利用を思い立ち、公民館、自治協議会様の協力により3月22日午後より河川敷の整備を実施して頂きました。同好会の会員も26名の参加を頂きました。この連帯感に感謝致します。令和2年度はコロナウィルス感染症対策で大会等実施出来ていませんが一日でも早く収まればと思います。今後とも中六の発展、福祉推進協議会への協力を微力ながら努力致します。



「ありがとう」に感謝の気持ち

田野一区民

日頃、日常生活をする中で、「ありがとう」という言葉は欠かせない一言です。「ありがとう」は、相手を幸せにできる、一番簡単で、なおかつ極めて強力な言葉。ちょっとした気づかいと。相手のためになると同時に自分のためにもなります。「ありがとう」は、自分も癒される感謝のことばというふうに解釈されているそうです。

いままでに沢山のひとに御世話になってきた自分に、「ありがとう」ということばは、とても身近なことばなのに、素直な気持ちで言っていたらどうかと反省することも有ります。

人間、1人では生きていけません。いろいろな方々のお世話になり、また御世話の出来る気持ちを忘れずに生活が出来ればと思っています。

それには、まず第一に健康でなくてはなりません。年をかさねることに、体力・気力もおとろえてくるのも、まじか（真下）に感じるのも近くなりました。

今年になり、新型コロナウイルスの感染により世界中が大変な、事態になっていますが、医療に係る関係者には、大変な苦勞と生命をかけての戦いに頭が下がる思いです。

歴史にもこの事態に、すべての人の結集により新型コロナに負けず、早期の終息を願いたいと思います。

これからも沢山の出会いにおいて、御世話になることも多い中「ありがとう」と気持ちよく言える自分でありたいと思います。

「新年度を迎えて」

田野一区民

「さあ！新年度だ。」なんていう呑気な気持ちで迎えられない、深刻な「コロナ」からのスタートになりました。我が家では、離れて暮らす長男が、新社会人となる為、二月にバタバタと引越しをすませましたが、入社式も新人研修もネットで・・・という形になりました。

京都市内で働く娘も、職場が休みになったので、福知山に帰って、一ヶ月以上を過ごしました。自分自身も、仕事の時間が短くなったり、休みが増えたりしましたが、家族と過ごす時間が増え、会話も増え、結構プラスになったような気がします。とは言え、まだまだ終息がみえないコロナウィルスです。この先不安もありますが、早い終息を願うばかりです。

今 思うこと

笹場区一区民

月日が経つのが何と早いことか・・・・・・・・。

前夜、寝る前には「明日は、これとこれをして、こうしよう・・・・」と思いながら眠りにつくけれど、翌日になれば思っていたことが半分も出来ないで一日が終わってしまう。

「まあ～いいか！明日があるさ！！」なんて気楽に考える自分がそこにいる。若いころはこんな事はなかったのに・・・・「やはり年の所為かなあ～」なんて諦めも早い。そんなこんなで日々の生活をしている。

友達が「毎日、何してるの？」と尋ねると「うん息しているで！！」と毎回答える私。明るくていい。それが私のとりえ。明るさと健康だけは、今のところ自信がある。

私がこうして元気で生活できるのも、基はと言えば母の遺伝子が大きいにあると思う。おかげで今まで大きな病気もせず元気でいられる。この遺伝子、息子にもしっかり引き継がれている。以前、息子の嫁さんに「〇〇さんは結婚して一度も病気がしい病気もせず頑張ってくれているから嬉しい。」と、それらしき言葉をかけてもらった事があった。その時の私、心の中で「よかった！！」と、つくづくおもったものだ。子どもたち 孫たち 主人にもこれからも健康で毎日を過ごせることを切に願っています。

もし、神様が「今までのご褒美の一つだけ願いをかなえてあげよう～」と言ってくれたなら、私は亡き父や母と今一度ゆっくり話したい。今の私を誉めてくれるか、それとも叱咤激励してくれるか・・・・知りたい。

《ぼけない為の五か条》

- 1 仲間がいて、気持ちの若い人
- 2 人の世話をして感謝の出来る人
- 3 物をよく読みよく書く人
- 4 よく笑い感動を忘れない人
- 5 趣味の楽しみを持ち旅の好きな人

この中で一つでも実践して、老後を楽しく生活していきたいと思います。



98歳の母を見送って

笹場区 北山

母を見送って1年になります。「自分は夫と早く別れるが、長命である、息子も長命である。」という若い時に新町で占ってもらった言葉を信じて頑張っていた母に癌が見つかり、医者から余命6か月と宣告されたのが昨日のように思い出されます。

米寿を迎えるころから病気や骨折など病院にお世話になることが多くなり、福祉関係の皆さんにお世話になり始めました。デイサービスやショートステイなど家族の生活も大切に考えていただいて、適切な指示をいただきました。

最後の入院は部屋から車いすで福祉タクシーにお世話になりました。自分では食事がとれなくなり、最後は酸素マスクをしてもらって大きな息を肩でしながら、その息がだんだん弱くなり静かに息を引き取りました。

母の人生を振り返ると、良き師に恵まれ、学ぶ機会にも恵まれ、家族や地域の皆さんの支えの中で自分の力をしっかり発揮できた人生だったように思います。特に50の手習いで始めた習字や大正琴は、地域の子どもたちや女性の皆さんとの交流を強くするきっかけであり、生き甲斐であったように思います。子どもたちと徳山まで新幹線で表彰式に出るという知らせや、中丹文化会館で大正琴の発表会に行くと元気な声で電話してきたのが思い出されます。

私達子どもや孫達ひ孫達には本当に優しい人でしたが、生きる姿を背中で見せるような人でした。

母は習字の題材に、私は子どもたちとの学びの題材に丹波竹田の生んだ偉大な教育者、芦田恵之助先生の言葉

バラ二本 一本は花大にして 一本は小
 大大を誇らず 小小なるを恥じず
 共に力の限り咲けるが美し

を共有できたことは、私にとってこの上ない幸せでした。

* 事務局からの今後の中六人部地区推進協議会活動計画予定のお知らせ

1) 中六地区福祉ふれあい広場開催計画予定修正版 (いずれも午前10時より12時まで)

中六福祉ふれあいひろば開催日	7月30日 第87回	10月29日 第88回	12月18日 第89回	1月28日 第90回	2月25日 第91回
場所ふれあいセンター於いて (主な催し項目)	七夕祭含む 開催90回 節目記念 イベント	催し等模索依頼 検討中 7月の 研修会で提起	クリスマス お楽しみ抽選・ ケーキ等 イベント	ぜんざいの ふるまい 他	令和2年度末 最後の開催 トン汁の ふるまい

2) 福祉推進活動計画 (全般)

月 日	7月1日	7月30日	9月27日	11月13日	2月1日	2月19日	2月25日
事業内容	福祉だより	研修会	中六敬老会	ふれあい交流 福祉だより	福祉だより	ふれあい配食	研修会
	発刊 第47号	ボランティア	アシスタント	交流会、発刊 第48号	発刊 第49号	高齢者ひとり暮らし宅	ボランティア

新しい生活様式の実践例

一人一人の基本的感染対策

感染防止の3つの基本

- ① 身体的距離の確保（ソーシャルディスタンス）
- ② マスクの着用
- ③ 手洗い

日常生活を営む上での基本的な生活様式

- ① まめに手洗い、手指消毒、②咳エチケットの徹底③こまめに換気
- ④ 身体的距離の確保⑤3密の回避（密集、密接、密閉）⑥毎朝の体温測定健康チェック

令和2年度の夏が来ます。

熱中症の予防行動

A) 暑さを避けましょう

- ① エアコンの利用
- ② 暑い日や暑い時間帯は無理をしない
- ③ 涼しい服装にする。

B) こまめに水分補給しましょう。

- ① のどの渇く前に水分補給
- ② 1日当たり1.2リットルを目安に
- ③ 大量に汗をかいたときは塩分も忘れずに

C) 適宜マスクをはずしましょう。

気温、湿度の高い中でのマスク着用は要注意
周囲の人と十分な距離を取ってマスクをはずし
休憩を

D) 日頃から健康管理をしましょう。

日頃から体温測定、健康チェック
体調が悪く感じたら無理せず自宅待機

E) 暑さに備えた体づくりをしましょう。適度に水分補給を忘れずに30分程度の運動を

編集後記

年明け後に、新型コロナウイルスの感染拡大がいつまで続くか、何かと活動の自粛の中において、区民の皆さまのご理解とご協力またご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

歴代の福祉関係委員様の思いを各種事業につないでまいりたく存じます。ご協力を宜しく願います。

後になりましたがご寄稿等ご無理を御願いしてまいりました皆様に厚くお礼申し上げます。

令和2年7月1日

発行責任者：大槻

編集責任者：土田

編集：民生児童委員

印刷所：〒620-0035 福知山市字内記72番地の1

(株)報国堂

TEL：0773-22-2883

募金をありがとう



赤い羽根共同募金